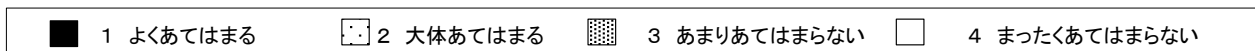
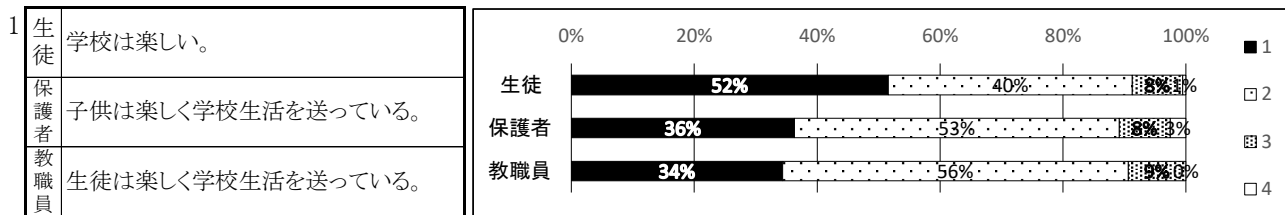


# 令和5年度 学校評価アンケート結果及び考察

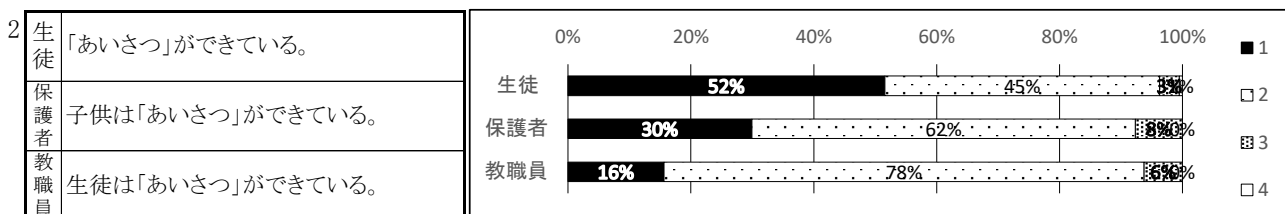


## 1 アンケート結果のまとめと考察

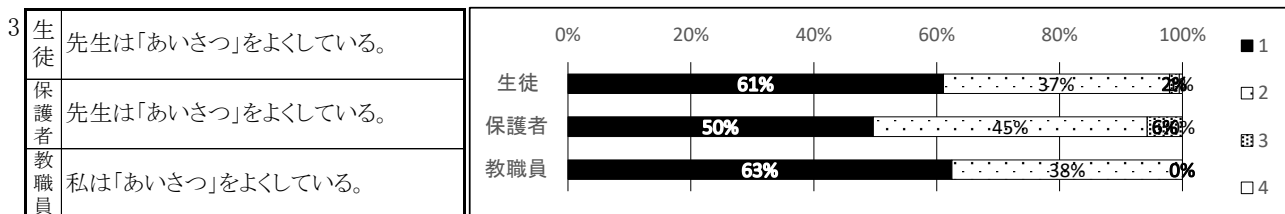


・生徒の92%が「よくあてはまる」「大体あてはまる」と答えており、学校行事は生徒にとって魅力あるものであることがわかる。保護者や教職員もほぼ良好な見方をしている。その中で、「よくあてはまる」と回答している教職員は34%とやや少ないが、生徒により自主的、意欲的な取組をさらに期待していることの表れではないだろうか。

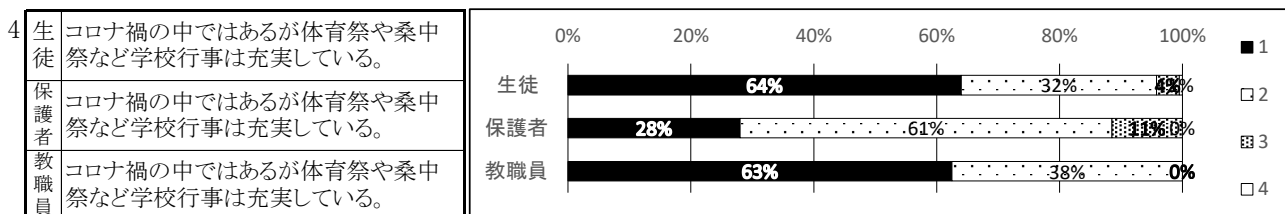
次年度は、生徒の創意・工夫が一層生かされ、生徒の意欲や達成感がより高められるような行事の企画・立案を期待したい。



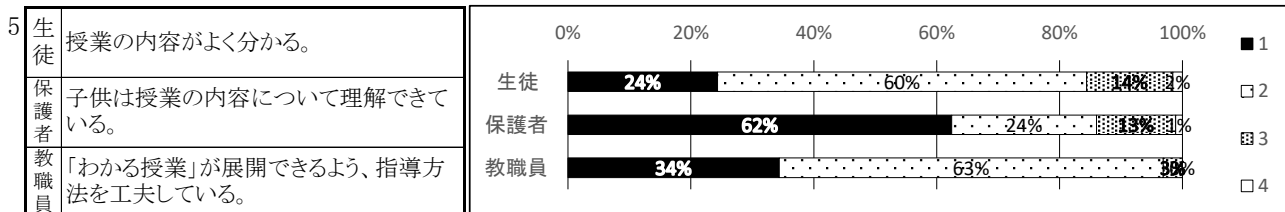
生徒と保護者の9割以上が肯定的な回答をしている。それに比べると、教職員の評価は低い。しかし、これは、現状に満足することなく、生徒たちに対して「いつでも、どこでも、誰にでも」気持ちの良いあいさつができるようになってほしいという期待の表れでもありと考えられる。



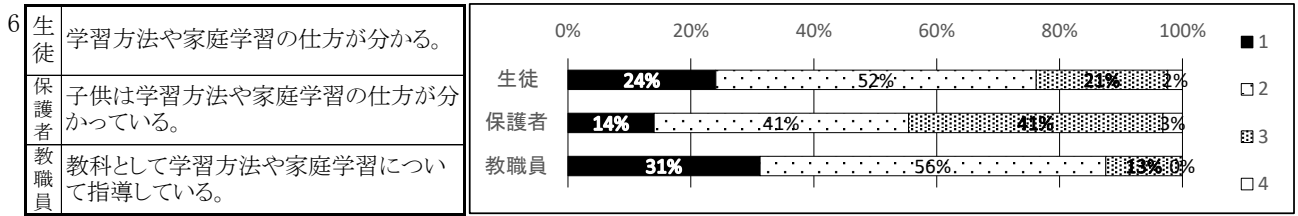
・生徒、保護者、教職員の約90%がよくしていると答えている。教員は、「自分から進んであいさつをする」生徒像を望んでいる。次年度も引き続き、学校として「あいさつ」の全面展開を通して進んであいさつする生徒を育成したい。



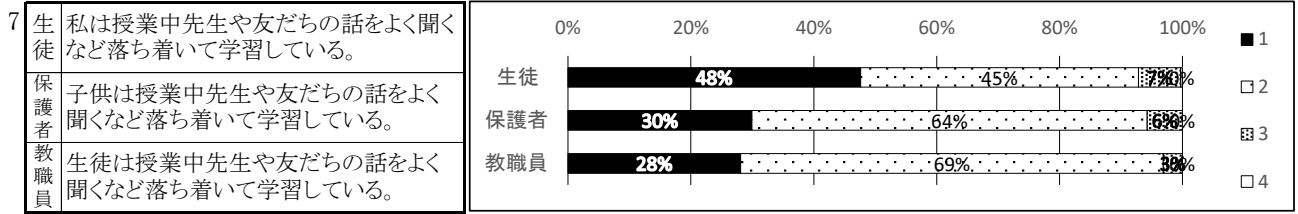
生徒、保護者、教職員の肯定的な回答率は約90%。体育祭や大沼駅伝大会が、開催されたことも影響していると考えられる。次年度も継続して、協力して活動できるよう、行事及び学校生活に臨ませていきたい。



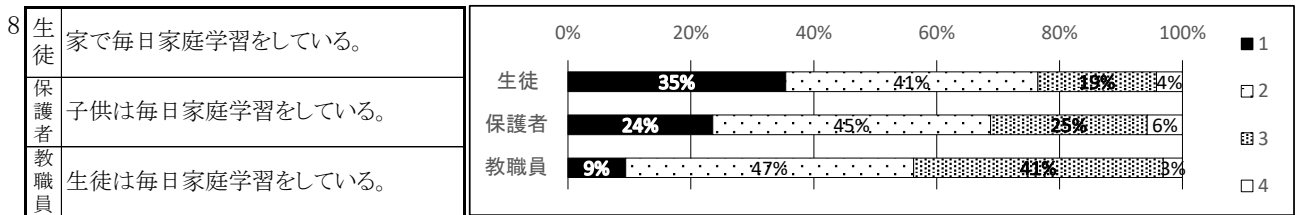
生徒と保護者の傾向はほぼ同じであった。一方、教職員は全員が肯定的な回答をしている。本校生徒が授業内容を理解し、学習内容を定着できるようにするため、授業力において課題があると捉えている結果だと思われる。



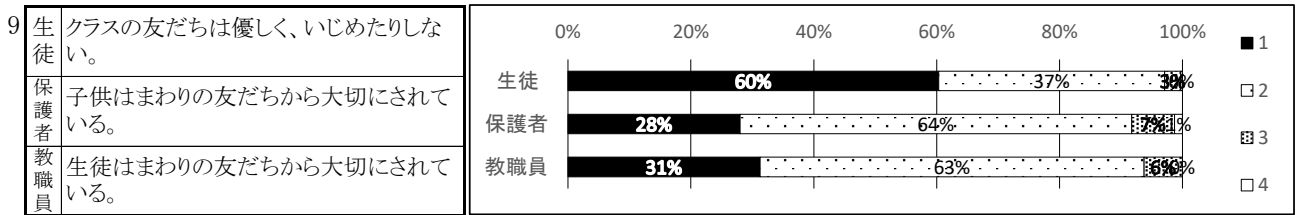
生徒と保護者の傾向は昨年度とほぼ同じであった。教職員の「よくあてはまる」と回答した割合が昨年度よりも高くなった(昨年度:19%)。生徒たちが理解できるよう、より丁寧な指導を心がけていこうとする教職員が多いことがわかる。



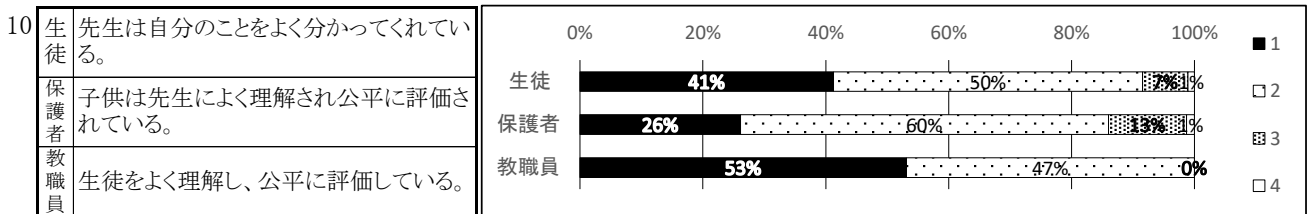
生徒の肯定的な回答の割合は93%、保護者の傾向は前年度と大きくは変わらない。教職員の肯定的な回答の割合は昨年度よりも高くなっている。(昨年度比: +13%) 保護者は家庭での生徒の姿をもとに回答しているので妥当な割合だと言える。次年度もさらに落ち着いて学習できるよう努力が必要である。



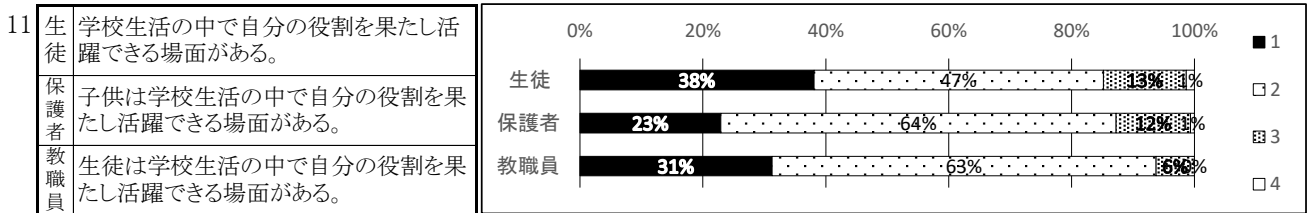
「よくあてはまる」と回答した割合は生徒・保護者・教職員全てにおいて昨年度と変わらない。保護者は家庭での生徒の姿をもとに回答しているので妥当な割合だと言える。教職員は、生徒の集団全体を見ているので、できていない生徒もいるので評価が低いと考えられる。



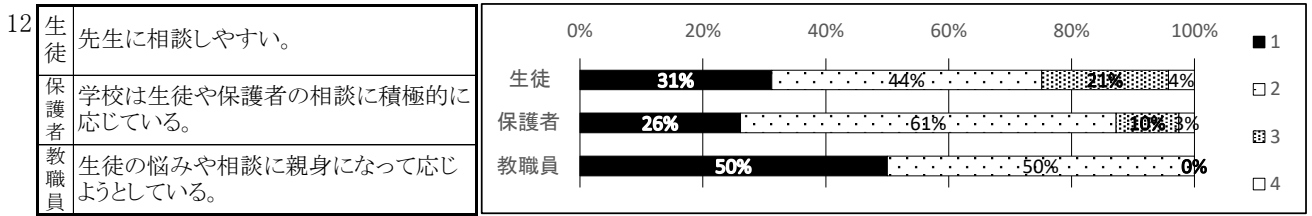
97%の生徒が肯定的な回答をしている。保護者においては、肯定的な回答が92%であるが、引き続き、丁寧に個々への指導・支援をしていく。教職員の評価は94%が肯定的ではあるが、「よくあてはまる」の割合は昨年度に比べ、増加している。(昨年度比+6%) 教員は指導者の立場で、より積極的に取り組む姿を求めている。次年度は教材研究を深め魅力ある授業を展開して、C、Dと回答している回答を減らす努力が必要である。



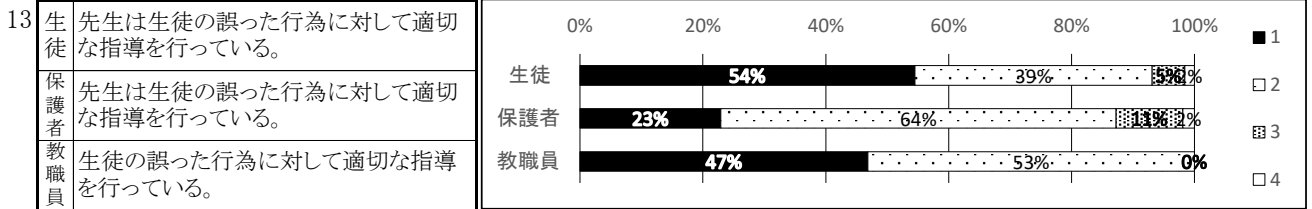
生徒と保護者の肯定的な回答をした割合は昨年度と大きく変わらない。「よくあてはまる」と回答した教職員の割合は昨年度に比べ、増加した。( +17%)



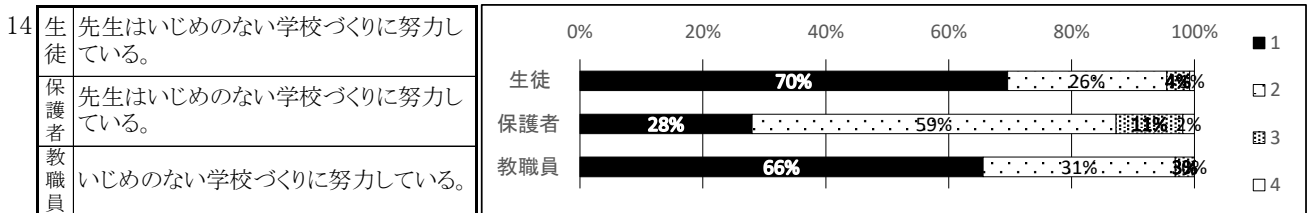
生徒と保護者については昨年度と同様の傾向。教職員に関しては肯定的な回答としての割合は昨年度とほぼ変わらない。「よくあてはまる」と回答した割合は、昨年と同様の回答である。生徒に自己有用感をもたせられるよう、意図的に場面を設定できるよう工夫していきたいところである。



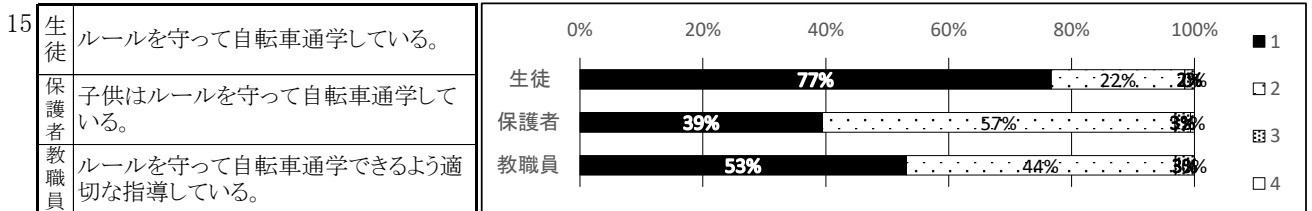
生徒、保護者、教職員ともに全体的な傾向は昨年度と変わらない。その中でも生徒と保護者においては「よくあてはまる」と回答した割合がそれぞれ微増した。(生徒+2%、保護者+5%)教職員も親身になって応じようとしていることが分かる。



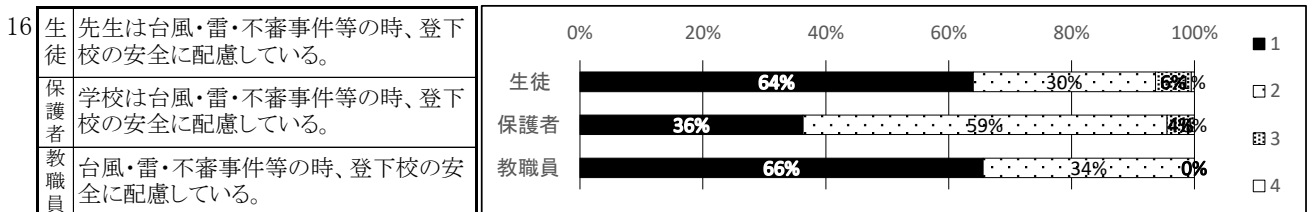
生徒、保護者の全体的な傾向は昨年度と大きく変わらない。教職員についても「よくあてはまる」と回答した割合は昨年度に比べて増加はしたが(昨年度比+5%)、全体としては肯定的な回答となっている。



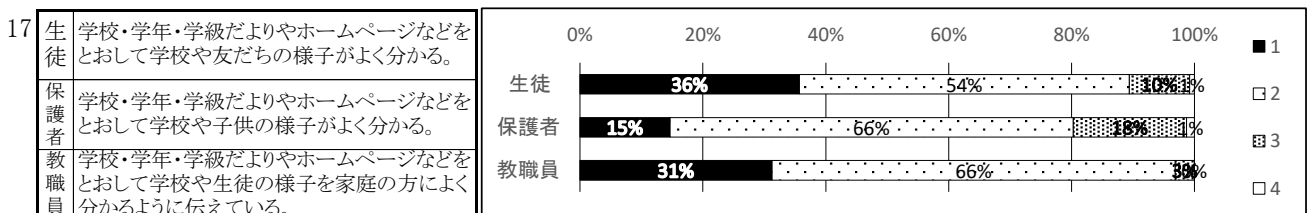
生徒の91%、保護者の87%が肯定的な回答となっている。ただし、保護者においては約1割が否定的な回答となっていることがわかった。教職員は、未然防止、早期発見、早期対応という点において努力していることがわかる。



全体的な傾向は昨年度とほぼ変わらない。7割の生徒が「よくあてはまる」と回答している。教職員は適切な指導を行っていると認識しているが、生徒と教職員との間の意識の差を改善できるよう、継続して指導に当たる必要がある。



生徒、保護者、教職員ともに肯定的な回答の割合は高いが、意識を高く持って対応していく。



全体的な傾向は昨年度と同様。今年度も肯定的な回答の割合は教職員が最も高い。学校としては個人情報の扱いに留意しながら、さらなる積極的な情報発信に努めていく必要がある。

